

メディア学部 メディア情報学科

履修の手引と手続き

<小 目>

I	ディプロマ・ポリシー	304
II	カリキュラム・ポリシー	304
III	授業科目について	305
IV	授業科目の単位と認定	305
V	卒業に必要な単位について	306
VI	進級条件及び履修上限について	306
VII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	307
	1. 学科共通科目群	307
	2. キャリア形成科目群	311
	3. 専門基礎科目群 I (メディア基礎)	312
	4. 専門基礎科目群 II (メディア教養)	313
	5. 専門科目群	314
VIII	履修申請について	320
IX	再履修について	320
X	試験について	321
XI	授業科目の単位認定と進級及び留年	322
XII	成績発表	323

履修の手引と手続き

I ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

メディア学部は、以下に掲げる能力を有し、かつ所定の単位を修得した上で、ゼミ研究における研究成果を認定された学生に、「学士（メディア情報）」の学位を授与する。

1. メディア産業の現状と変化のあり方を理解し、適切かつ戦略的に自身のキャリアをデザインできる。
2. グローバル化と多様化が一層進展する社会の中で、国内外でグローバルな仕事に従事し、そこで活躍することが出来る視座を有している。
3. 集団で作品を生み出す作業に当たるための知識と経験をもち、協調性をもって実践的に活用できる。
4. 習得した技術や抽象的概念を言葉やカタチに具現化する能力を持ち、そこにおいて文化的または経済的価値を付加できる。
5. 正答の無い課題を解決する能力と世の中に未だ存在していないものを新たに創造する能力を備え、クリエイティブな活動に自発的に取り組む向上心とチャレンジ精神を有している。

II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

メディア学部では、メディアとテクノロジーが共進化し、グローバル化と多様性が急速に進展する時代において、エンタテインメント産業が求める、クリエイティビティをもって活躍できる人材を育成するため、以下のようなカリキュラムを編成する。

1. コンテンツ産業でグローバルに活躍できる人材育成のために、国際コミュニケーション力を高め、実践的な語学力を身につけるための科目を学科共通科目群Ⅰ（語学）に配置する。
2. 情報化がより一層進展する状況において、メディア技術を適切に用いることによって効果的な情報発信を出来る能力を養うため、コンピュータの基本操作からビジネス文章、映像・サウンド、SNSの活用までを学ぶことのできる科目を学科共通科目群Ⅱ（情報）に配置する。
3. 現代社会における教養として、社会や経済の基本を学ぶことができる科目を学科共通科目群Ⅲ（教養）に配置する。
4. コンテンツ産業へのスムーズな就職を目指し、学生が自己を啓発し大学卒業時及びその後のキャリアアップに関する視座を獲得できるようにするため、メディア業界と自身の競争力を考える科目、自身の競争力を養うための科目をキャリア形成科目群に配置する。
5. 自身の選択する特定の専門分野の基礎としてのみならず、関連する他の専門領域についても専門的に学ぶ機会を提供すべく、自身の専門科目に限定せずに履修することのできる科

目を専門基礎科目群Ⅰ（メディア基礎）に配置する。

6. 環境変化の激しい時代において、そうした変化に耐えうる知識と、自ら答えを求める力としての教養を重視し、メディア・テクノロジー、文化、伝統、グローバリズムに関して幅広い知識を習得するための科目を専門基礎科目群Ⅱ（メディア教養）に配置する。
7. 専門科目群Ⅰ-Vでは、東金キャンパスに設置するニューメディアコースと、紀尾井町キャンパスに設置する映像芸術コースごとに、専門分野を体系的に学ぶカリキュラムを編成する。

ニューメディアコースでは、「メディアアーツ」「メディアテクノロジー」「メディアデザイン」の3分野を設置し、映像、サウンド、メディアサイエンス、プログラミング、アート、デザインなどの知識と技術を学び、作品作りを通してそれぞれの専門性を身につける。また同時にこの3分野を横断的に学ぶことで、「柔軟性（フレキシビリティ）」「機動性（モビリティ）」「創造性（クリエイティビティ）」「多様性（ダイバーシティ）」をもって、新たな表現を生み出す力を持った人材を育成できる科目を配置する。

映像芸術コースでは、映像演出、映像技術、映像美術、アニメーション・CG、サウンド・音楽、ステージ、芸能、エンタテインメント・ビジネスの8つの専門分野において実習とビジネスを生み出す知識取得の科目を配置する。実習の科目では、それぞれの分野での技術の学習と同時に、その技術の裏付けとなる論理的思考を取得できるカリキュラムを構成する。また、変化するビジネス環境においてクリエイティブな場面で活躍するクリエイティブ・リーダーを育成することを目的とした、各分野のビジネスの現状と今後を学ぶことができる科目を配置する。

8. 専門科目群Ⅵ（ゼミ研究・実践）では、演習および研修・インターンシップを通して、専門的な知識を学び、その実践と発展を図るための専門科目を配置する。

Ⅲ 授業科目について

メディア学部メディア情報学科における授業科目は、学科共通科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、キャリア形成科目群、専門基礎科目群Ⅰ・Ⅱ、専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵで形成する。

Ⅳ 授業科目の単位と認定

本学は単位制を採用している。単位制とは、ひとつひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学修評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・C 4段階の評価により行い、D・E・F・T・Zの評価は単位を認定しないものとする。なおN・Hは、単位振替により単位を認定したことを表す。

V 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

系列	学部・学科	メディア学部	メディア情報学科
	必要修得単位数		
学科共通科目群Ⅰ（語学）		4	
学科共通科目群Ⅱ（情報）		10	
学科共通科目群Ⅲ（教養）		10	
キャリア形成科目群		10	
専門基礎科目群Ⅰ（メディア基礎）		20	
専門基礎科目群Ⅱ（メディア教養）		20	
専門科目群Ⅰ（ニューメディア）		26	
専門科目群Ⅱ（映像表現）		26	
専門科目群Ⅲ（身体・ステージ表現）		26	
専門科目群Ⅳ（ビジネス・コミュニケーション）		26	
専門科目群Ⅴ（サウンド）		26	
専門科目群Ⅵ（ゼミ研究・実践）		18	
上記科目群の必要修得単位数以上に修得した単位と、他学部（経営情報学部、国際人文学部、福祉総合学部）の科目を履修して修得した単位 ※他学部の科目で履修可能な単位は、20単位まで。		38	
計		126	

VI 進級条件及び履修上限について

2年次に進級するためには、「基礎ゼミⅠa・基礎ゼミⅠb」を含め、15単位以上を修得しなければならない。3年次に進級するためには、2年次までの必修科目を含め、36単位以上を修得しなければならない。ただし、未修得必修科目が2科目以下の者については進級を認めることがある。4年次に進級するためには、3年次までの必修科目を含め、80単位以上を修得しなければならない。

ニューメディアコース（メディアアーツ・メディアテクノロジー・メディアデザインの3分野）では、それぞれの専門領域に関連する授業科目を、学科共通科目群Ⅱ（情報）、学科共通科目群Ⅲ（教養）、専門科目群Ⅰ、Ⅴ、Ⅵの中から自由に組み合わせて4年間で学んでいく。映像芸術コースの8つの分野（映像演出、映像技術、映像美術、アニメーション・CG、サウンド・音楽、ステージ、芸能、エンタテインメント・ビジネス）から、主分野と必要に応じて副分野を選び、それぞれの専門領域の授業科目を、学科共通科目群Ⅱ（情報）、学科共通科目群Ⅲ（教養）、専門科目群Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵの中から選択し4年間で学んでいく。ニューメディアコースと映

像芸術コースにおいては、受講するキャンパスが異なるので注意が必要である。

また、履修登録できる単位数は、年間で原則50単位未満（各学期で30単位まで）である。ただし、大学が教育上適当と認める場合は、この上限単位を超えて履修することを認めることがある。

〈年次別で修得することが望ましい単位数の目安〉

学年	単位数の目安
1年次	学科共通科目群Ⅰ（語学） Fundamentals of English I・Oral Fluency I …… 2科目4単位（必修） 日本語科目（外国人留学生・帰国生必修） …………… 3科目6単位（選択必修） 学科共通科目群Ⅱ（情報） デジタルメディアⅠ・デジタルメディアⅡ…………… 2科目4単位（必修） デジタルアプリケーションⅠ…………… 1科目2単位（必修） キャリア形成科目群 基礎ゼミⅠa・基礎ゼミⅠb…………… 2科目4単位（必修） 専門基礎科目群 メディア概論AⅠ・メディア概論AⅡ…………… 2科目4単位（必修） ※指定された各科目群より修得した科目以外に20単位
2年次	キャリア形成科目群 基礎ゼミⅡa・基礎ゼミⅡb…………… 2科目4単位（必修） ※指定された各科目群より修得した科目以外に40単位
3年次	専門科目群Ⅵ（ゼミ研究・実践） プロジェクト研究Ⅰa・プロジェクト研究Ⅰb…………… 2科目6単位（必修） ※指定された各科目群より修得した科目以外に22単位
4年次	専門科目群Ⅵ（ゼミ研究・実践） プロジェクト研究Ⅱa・プロジェクト研究Ⅱb…………… 2科目4単位（必修） ※指定された各科目群より修得した科目以外に12単位
卒業に必要な修得単位数 126単位	

Ⅶ 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

1. 学科共通科目群Ⅰ（語学）

学科共通科目群は、Ⅰ（語学）、Ⅱ（情報）、Ⅲ（教養）の3つの科目群からなる。

(1) 学科共通科目群 I (語学)

学科共通科目群 I (語学) は、外国語によるコミュニケーション能力と日本語文章力の向上をはかる科目を配置している。

※単位数に○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群 I (語学)	Fundamentals of English I	②				4 単位	本科目群では、必修科目を含み、4 単位以上修得のこと。 ただし、外国人留学生・帰国生は、「Fundamentals of English I」「同 II」の代わりに「日本語中上級 a (総合)」, 「日本語中上級 b (受容)」, 「日本語中上級 d (筆記産出)」, 「日本語中上級 c (現代文章を読む)」, 「日本語中上級 e (論文作成)」, 「日本語中上級 c (口頭産出)」, 「日本語中上級 e (言語知識)」, 「日本語中上級 f (聴解)」, 「日本語中上級 g (読解)」, 「日本語中上級 b (映像作品の日本語)」, 「日本語中上級 d (口頭発表)」の中から、3 科目 6 単位以上を修得のこと。
	Fundamentals of English II		2				
	Oral Fluency I	②					
	Oral Fluency II		2				
	日本語中上級 a (総合)		2				
	日本語中上級 b (受容)		2				
	日本語中上級 d (筆記産出)		2				
	日本語中上級 a (総合)		2				
	日本語中上級 c (現代文章を読む)		2				
	日本語中上級 e (論文作成)		2				
	日本語中上級 c (口頭産出)		2				
	日本語中上級 e (言語知識)		2				
	日本語中上級 f (聴解)		2				
	日本語中上級 g (読解)		2				
	日本語中上級 b (映像作品の日本語)		2				
	日本語中上級 d (口頭発表)		2				
	中国語 I A	2					
	中国語 I B	2					
	中国語 II		2				
	韓国語 I A	2					
韓国語 I B	2						
韓国語 II		2					
フランス語 I A	2						
フランス語 I B	2						
フランス語 II		2					

※単位数に○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群 I (語学)	Basic Japanese a (*)		2				*が付されている「Basic Japanese a」以降の科目は、指定された交換・短期留学生以外は履修することができない。
	Basic Japanese b (*)		2				
	Basic Japanese c (*)		2				
	Basic Japanese d (*)		2				
	Japanese Language Proficiency Test a (Knowledge) (*)		2				
	Japanese Language Proficiency Test b (Comprehension) (*)		2				
	Intermediate Japanese a (*)		2				
	Intermediate Japanese b (*)		2				
	Japanese Project a (*)		2				
	Japanese Project b (*)		2				

〔備考〕

- (1) Fundamentals of English II, Oral Fluency IIを履修するためには、履修前提条件として、それぞれの I を修得していなければならない。
- (2) 第二外国語において、I Bを履修するためには I A を、IIを履修するためには I B の単位を修得していなければならない。
- (3) 外国人留学生・帰国生は、メディア学部に配当がない「ビジネス日本語 I」,「ビジネス日本語 II」,「日本語プロジェクト学習 a」・「日本語プロジェクト学習 b」を履修することができない。ただし、日本語の補習として受講を認めることがあるが、卒業要件に含む単位として認定することはできない。

(2) 学科共通科目群Ⅱ（情報）

学科共通科目群Ⅱ（情報）は、学科の専門領域教育への円滑な導入を図るための情報メディアリテラシー能力の養成と、基礎技術を学習する科目を配置している。

※単位数の○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅱ（情報）	デジタルメディアⅠ	②				10単位	「学科共通科目群Ⅱ（情報）」、「学科共通科目群Ⅲ（教養）」の中より必修科目を含み、10単位以上修得のこと。
	デジタルメディアⅡ	②					
	デジタルアプリケーションⅠ	②					
	デジタルアプリケーションⅡ	2					
	情報セキュリティ	2					

(3) 学科共通科目群Ⅲ（教養）

学科共通科目群Ⅲ（教養）は、現代社会の教養として、社会や経済の基本を学ぶことができる科目を配置している。

※単位数の○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅲ（教養）	コミュニケーション概論	2				10単位	「学科共通科目群Ⅱ（情報）」、「学科共通科目群Ⅲ（教養）」の中より必修科目を含み、10単位以上修得のこと。
	社会学入門	2					
	現代史	2					
	デザイン概論	2					
	広告戦略論		2				
	古典芸能研究		2				

2. キャリア形成科目群

キャリア形成科目群では、円滑な学生生活を送るための基礎知識にはじまり、将来の職業を視野に入れたキャリアパス設計のための知識を学ぶ科目を配置している。広く世界に目を向けるため、異文化理解と相互交流を目的とした海外研修科目を配置している。

※単位数の○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
キャリア形成科目群	基礎ゼミⅠ a	②				10単位	本科目群では、必修科目を含み、10単位以上修得のこと。
	基礎ゼミⅠ b	②					
	基礎ゼミⅡ a		②				
	基礎ゼミⅡ b		②				
	メディア海外研修 a	2					
	メディア海外研修 b	2					
	キャリアデザインA		2				
	キャリアデザインB			2			

〔備考〕

- (1) 「基礎ゼミⅡ a」「同Ⅱ b」を履修するためには、それぞれ「同Ⅰ a」「同Ⅰ b」を修得していなければならない。

3. 専門基礎科目群 I (メディア基礎)

専門基礎科目群 I (メディア基礎) は、メディア関連領域の基本的な概念、及び基礎スキルを学習する科目を配置している。

※単位数の○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
専門基礎科目群 I (メディア基礎)	メディア概論 A I	②				20単位	「専門基礎科目群 I (メディア基礎)」, 「専門基礎科目群 II (メディア教養)」の中より必修科目を含み、20単位以上修得のこと。
	メディア概論 A II	②					
	メディア概論 B		2				
	メディア概論 C		2				
	メディア概論 D		2				
	メディア概論 E		2				
	メディア基礎実習 a		2				
	メディア基礎実習 b		2				
	メディア基礎実習 c		2				
	メディア基礎実習 d		2				
メディア基礎実習 e		2					

4. 専門基礎科目群Ⅱ（メディア教養）

専門基礎科目群Ⅱ（メディア基礎）は、メディア業界で活躍するために必要な基礎知識をはじめ、メディア・テクノロジー、文化、伝統、グローバリズムに関して幅広い知識を習得するための科目を配置する。

※単位数の○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群Ⅱ (メディア教養)	情報システム論	2				20単位	「専門基礎科目群Ⅰ（メディア基礎）」、「専門基礎科目群Ⅱ（メディア教養）」の中より必修科目を含み、20単位以上修得のこと。
	Webデザイン	2					
	デッサンⅠ	2					
	マーケティング	2					
	マネタイジング	2					
	音楽表現基礎	2					
	サウンド表現論Ⅰ	2					
	表現基礎	2					
	クリエイティブシンキング	2					
	クリティカルシンキング	2					
	プランニング	2					
	芸術文化研究	2					
	著作権	2					
	エンタテインメント概論	2					
	服飾文化研究	2					
	舞台空間概論	2					
	音楽作品研究Ⅰ	2					
	映画史	2					
	テレビ番組史	2					
	ミュージカル研究	2					
	ヴァーチャルリアリティ概論	2					
	人工知能論	2					
	コンテンポラリーアート論	2					
ニューメディアビジネス	2						
English for Media Professionals I		2					
English for Media Professionals II		2					
しゃべりのスキルUP			2				
ブランディング			2				
表象文化研究			2				

5. 専門科目群

専門科目群は、ⅠからⅥの6群で構成している。「ニューメディア」「映像表現」「身体表現・ステージ」「ビジネス・コミュニケーション」「サウンド」「ゼミ研究・実践」これらの科目群は、それぞれの専門領域に関する専門知識と実践能力の養成を目的とし、加えてそれらを取り巻く社会と文化、及びメディア情報環境への理解を深めることになる。

Ⅰ群は主にニューメディアコース、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ群は主に映像芸術コース、Ⅴ、Ⅵ群はニューメディアコースと映像芸術コースの共通科目群である。

(1) 専門科目群Ⅰ（ニューメディア）

専門科目群Ⅰは、ニューメディアに関わる科目群である。1年次の「メディア概論」「メディア基礎実習」を通して、多様なメディアに関する基本概念や基礎技術を学んだ後、主として2年次より「メディアアーツ」「メディアテクノロジー」「メディアデザイン」の各分野に必要な幅広い知識と専門技術を習得するための科目を配置している。

「メディアアーツ」分野では、「メディアアーツⅠ・Ⅱ」「スタジオ番組」「デジタル音楽表現Ⅰ・Ⅱ」「デジタルサウンド」を配置している。

「メディアテクノロジー」分野では、「メディアテクノロジーⅠ・Ⅱ」「データベース」「プログラミングⅠ・Ⅱ」「データ構造とアルゴリズム論」を配置している。

「メディアデザイン」分野では、「メディアデザインⅠ・Ⅱ」「イラストレーション」「グラフィックデザイン」「デジタルデザインⅠ・Ⅱ」「エディトリアルデザイン」「生活文化デザイン」を配置している。

「ニューメディア」を学習する学生は、専門基礎科目群Ⅱの「Webデザイン」「人工知能論」「ニューメディアビジネス」などを併せて履修し、メディアの基礎能力を高めることを推奨する。

上記のように複数のメディア分野の科目が用意されており、学生は自分の将来の進路や志望する職業にあわせて横断的に科目履修を行い、複合的なメディア能力の獲得をめざすことを期待する。

(2) 専門科目群Ⅱ（映像表現）

専門科目群Ⅱは、映画やテレビ、Web映像などの映像コンテンツと映像文化に関わる科目群である。1年次の「メディア概論」,「メディア基礎実習」を通して、映像に関する基本概念や基礎技術を学んだ後、2年次より「映像演出」「映像技術」「映像美術」「アニメーション・CG」の各分野に必要な幅広い知識と専門技術を習得するために、「映像演出」「映像撮影照明Ⅰ・Ⅱ」「デジタル映像編集Ⅰ・Ⅱ」「シナリオライティング」「番組企画・構成」「映像研究」「映像録音Ⅰ・Ⅱ」「映像美術デザインⅠ・Ⅱ」「CG映像Ⅰ・Ⅱ」「アニメーションⅠ・Ⅱ」を配置している。映画研究、特殊メイク、色彩学の分野にも科目を配置している。

(3) 専門科目群Ⅲ（身体・ステージ表現）

専門科目群Ⅲは、身体表現と舞台空間に関わる科目群である。「音声表現AⅠ・Ⅱ（ヴォーカル）」「音声表現BⅠ・Ⅱ（声優）」「音声表現CⅠ・Ⅱ（アナウンス）」「身体表現AⅠ・Ⅱ（ダ

ンス)」「身体表現B I・II (アクティング)」の実習を通して身体表現の基礎能力を養い、「演劇制作」では、舞台空間と演技について、総合的、実践的に学習する。

「舞台空間I・II」では、舞台運営、舞台音響、舞台照明、舞台美術をはじめとする、舞台表現のスタッフワークについて幅広い知識と専門的技術を学ぶ。舞台芸術に関わる科目として「戯曲ライティング」「演劇研究」を配置している。

(4) 専門科目群Ⅳ (ビジネス・コミュニケーション)

専門科目群Ⅳは、エンタテインメントを中心としたビジネス・コミュニケーションに関わる科目群である。「ビジネスプロデュース」では、ビジネスを生み出す仕組みについて総合的に学び、「映像プロデュース」や「音楽プロデュース」、「ステージプロデュース」、「アニメプロデュース」において、メディア業界の各分野におけるビジネス展開の方法について、詳細を実践的に学んでいく。また、「エンタテインメント産業研究」や「芸能マネジメント」では、現在のエンタテインメントビジネスのあり方について学び、「ソーシャルメディア研究」や「仮装文化研究」、「eスポーツビジネス」においては、今まさに勃興中の注目分野におけるビジネス展開の可能性と課題について研究する。

(5) 専門科目群Ⅴ (サウンド)

専門科目群Ⅴは、音声とサウンドに関わる科目群である。「メディア概論」や「メディア基礎実習」でサウンド領域の基礎概念と技術を学んでいることを前提に、「サウンド表現論Ⅱ」や「音楽作品研究Ⅱ」、「サウンド表現I・II」では、音楽理論や専門知識、楽器演奏の理解を深め、「サウンドデザインI・II」「デジタルレコーディングI・II」「音響効果」では、音の収集、サウンドコンテンツ制作、サウンド配信、音データベースについて習得していく。

(6) 専門科目群Ⅵ (ゼミ研究・実践)

専門科目群Ⅵは、演習や作品制作・研究に関わる科目群である。

「映像制作」では、東金キャンパスのTVスタジオ、紀尾井町キャンパスの多目的スタジオや、産学連携の日活撮影所の施設を利用して、作品制作を主に行ない、映像制作現場で必要とされている専門的能力を習得する。

「制作演習」では、1年次より学習してきた幅広い専門知識を活かし、より高度な専門分野の研究、コンテンツ制作を実践的、総合的に学ぶ。

「メディアプロジェクト」は、大学内での講義と実習授業だけでなく、コンテンツ制作やイベント制作の現場でプロフェッショナルとの協働を通して、あるいは、地域社会と連携したフィールドワークに参加することで、学生自らが問題解決能力を高め、価値の創造をめざすことを目的としている。

「プロジェクト研究I a・I b・II a・II b」は、3,4年次の必修科目であり、各専門領域のプロジェクト研究の中から、自分の将来の職業を視野に入れ、所属するプロジェクトをひとつ選択し、各自の研究テーマをより深く追求していく。「卒業論文および制作I・II」(4年次)では、4年間の学びの集大成として卒業論文、卒業制作に取り組む。

※単位数に○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ (ニューメディア)	データベース		4			26単位	専門科目群Ⅰ～Ⅴの中より、26単位以上修得のこと。
	プログラミングⅠ		2				
	プログラミングⅡ		2				
	データ構造とアルゴリズム論		2				
	メディアテクノロジーⅠ		4				
	メディアテクノロジーⅡ		4				
	メディアアーツⅠ		4				
	メディアアーツⅡ		4				
	スタジオ番組		6				
	デジタル音楽表現Ⅰ		2				
	デジタル音楽表現Ⅱ		2				
	デジタルサウンド		4				
	イラストレーション		4				
	グラフィックデザイン		4				
	デジタルデザインⅠ		2				
	デジタルデザインⅡ		2				
	エディトリアルデザイン		4				
	メディアデザインⅠ	4					
	メディアデザインⅡ		4				
	生活文化デザイン		2				
専門科目群Ⅱ (映像表現)	映像演出		4				
	映像撮影照明Ⅰ		2				
	映像撮影照明Ⅱ		2				
	デジタル映像編集Ⅰ		2				
	デジタル映像編集Ⅱ		2				
	シナリオ研究	2					
	シナリオライティング		2				
	番組企画・構成		2				
	映像研究		2				
	映像録音Ⅰ		2				
	映像録音Ⅱ		2				
	映像美術デザインⅠ		4				
	映像美術デザインⅡ		4				

※単位数に○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ (映像表現)	特殊メイク		2			26単位	専門科目群Ⅰ～Ⅴの中より、26単位以上修得のこと。
	色彩学		2				
	デッサンⅡ		2				
	CG映像Ⅰ		4				
	CG映像Ⅱ		4				
	アニメーションⅠ		4				
	アニメーションⅡ		4				
	3DCG制作		2				
	日米映画比較研究			2			
	映画作品研究Ⅰ			4			
	映画作品研究Ⅱ			4			
専門科目群Ⅲ (身体・ステージ表現)	舞台空間Ⅰ		4				
	舞台空間Ⅱ		4				
	舞台運営			4			
	舞台照明		4				
	舞台音響		4				
	音声表現AⅠ	1					
	音声表現AⅡ		2				
	音声表現BⅠ	1					
	音声表現BⅡ		2				
	音声表現CⅠ	1					
	音声表現CⅡ		2				
	身体表現AⅠ	1					
	身体表現AⅡ		2				
	身体表現BⅠ	1					
	身体表現BⅡ		2				
	演劇制作		4				
	戯曲ライティング		2				
演劇研究		2					

〔備考〕

- (1) 音声表現において、AⅡ・BⅡ・CⅡを履修するためには、それぞれAⅠ・BⅠ・CⅠの単位を修得しなければならない。
- (2) 身体表現において、AⅡ・BⅡを履修するためには、それぞれAⅠ・BⅠの単位を修得しなければならない。

※単位数に○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅳ (ビジネス・コミュニケーション)	ビジネスプロデュース		2			26単位	専門科目群Ⅰ～Ⅴの中より、26単位以上修得のこと。
	映像プロデュース		2				
	音楽プロデュース		2				
	ステージプロデュース		2				
	エンタテインメント産業研究	2					
	仮装文化研究		2				
	芸能マネジメント		2				
	ソーシャルメディア研究		2				
	アニメプロデュース		2				
	eスポーツビジネス		2				
専門科目群Ⅴ (サウンド)	サウンド表現論Ⅱ	2					
	音楽作品研究Ⅱ		2				
	サウンドデザインⅠ		4				
	サウンドデザインⅡ		4				
	デジタルレコーディングⅠ		4				
	デジタルレコーディングⅡ		4				
	音響効果		2				
	サウンド表現Ⅰ	1					
	サウンド表現Ⅱ		2				

※単位数に○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群VI (ゼミ研究・実践)	プロジェクト研究Ⅰ a			③		18単位	本科目群では、必修科目を含み、18単位以上修得のこと。
	プロジェクト研究Ⅰ b			③			
	プロジェクト研究Ⅱ a			②			
	プロジェクト研究Ⅱ b			②			
	卒業論文および制作Ⅰ			2			
	卒業論文および制作Ⅱ			2			
	制作演習 a		4				
	制作演習 b		4				
	制作演習 c			4			
	制作演習 d			4			
	映像制作 a		4				
	映像制作 b		4				
	映像制作 c			4			
	映像制作 d			4			
	メディアプロジェクト a		2				
	メディアプロジェクト b		2				
メディアプロジェクト c		2					
メディアプロジェクト d		2					
メディアプロジェクト e		2					

Ⅷ 履修申請について

各年次において履修しようとする科目は、指定された期日に、所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、希望する授業を受講し、その単位を取得するための重要な手続きである。進級や卒業に影響をおよぼすこともあるので、以下の注意事項を厳守し、慎重に履修申請をすること。

- (1) 履修申請をしていない（できていない）科目は、受講しても単位が認められない場合もある。履修を最終的に確定する前に、時間割表をもう一度確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合期間には、希望どおり登録されているかを必ず確認すること。
- (2) 履修を計画する際には、1年間の受講計画をたてること。また、進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。
- (3) 同一の時限に2つ以上の科目を履修することはできない。
- (4) 一度単位を修得した科目は、再度履修することはできない。
- (5) Web履修入力の際、一定の時間を経過するとタイムアウトとなる可能性があるため、登録する講義や時間割の下書き等の準備をしてから入力すること。
- (6) 履修申請は、指定された期間以外に手続することができない。入力期限を厳守すること。
- (7) 履修や留学等についての疑問・質問等は、それぞれのアドバイザーもしくは、学部事務室に相談すること。

Ⅸ 再履修について

履修した科目の単位が取得できなかった場合は、次年度または次学期において再び履修することができる。

X 試験について

1. 定期試験

- (1) 定期試験は原則として学期末に行う。
- (2) いずれの科目も授業回数の1/3以上欠席した場合には、原則として当該科目の定期試験受験資格を失う。欠席と公欠の詳細については、本学生便覧の「学生生活のしおり授業関係」ページに記載されているので、必ず確認すること。
- (3) 科目によっては論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

2. 追 試 験

- (1) 追試験は、やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し、原則として学期末に実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な事由を証明する書面をもって速やかに授業担当教員に届け出ること。
- (3) 追試験は、成績表の当該科目にTの表示がなされた場合に限り受験することができる。なお、追試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (4) 追試験を受験しようとする者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
なお、追試験の受験料は、1科目につき200円である。

3. 再 試 験

- (1) 再試験は、原則として学期末に実施する。ただし、科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 定期試験の結果、不合格（この場合成績表の当該科目にFの表示がなされる）となった科目のある者は、当該科目の担当教員が再試験を行なう場合、受験することができる。なお、再試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (3) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
なお、再試験の受験料は、1科目につき1,000円である。

4. 試験に関する注意

1. 通 則

- (1) 試験場内では、監督者の指示に従わなければならない。なお、監督者の指示に従わない者には、退場を命ずることがある。
- (2) 試験場内では、筆記用具・持ち込みを許された資料以外のものは、すべて監督者の指定する場所におかなければならない。
- (3) 受験者は学生証および受験許可証（追・再試験の場合）を、机の上の見やすい場所に提示しておかなければならない。
- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室・受験を認めない。

- (5) 試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお、監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。
- (6) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (7) 試験の行われる学期の授業料未納の者・授業回数の1/3以上欠席した者は、試験を受けることができない。
- (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて、遅滞なく授業担当教員に届け出なければならない。

2. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 不正行為をした者については、学則第68条により罰せられ、更に当該年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
また、不正行為を行った学期に履修している全ての科目の単位の認定しない場合がある。
- (2) 不正行為のあった者の懲戒処分については、教授会の審議を経て、学長が決定する。
- (3) 学長はその旨保証人を召喚して通知すると共に学内にこれを公示する。

3. 試験における不正行為とは

- (1) 他の人から答えを教わることや、教えること等、いわゆるカンニング及びその手助けをすること。
- (2) 本人以外の名前・学籍番号で受験すること。
- (3) 許可されていないものを使用すること。
- (4) 「解答はじめ」の前、及び「解答おわり」の後に、試験監督の指示に従わず、解答を続けること。
- (5) その他、試験監督の指示に従わないこと。
- (6) 論文・レポート等において、剽窃行為をすること。

※剽窃行為…引用の形式をとらず、著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。学術上のルール・モラルに反する行為であり、著作権法に違反する行為。

XI 授業科目の単位認定と進級及び留年

1. 単位認定

- (1) 各科目の成績は、シラバス記載の成績評価基準に基づき総合的に判定する。
- (2) 100点を満点とし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。
その評価は次に従う。

評価	得点分布
S	100点～90点
A	89点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点

- (3) 再試験における評価は60点を合格とし、79点を上限とする。
- (4) 再試験における成績評価の最高点は、定期試験合格者の成績評価の最低点を上回らないものとする。

2. 進級及び留年

- (1) 2年次への進級は、「基礎ゼミ I a」「基礎ゼミ I b」を含め15単位以上を修得しなければならない。
- (2) 3年次への進級は、2年次までの必修科目を含め、36単位以上を修得しなければならない。
- ただし、未修得必修科目が2科目以下の者については進級を認めることがある。
- (3) 4年次への進級は、3年次までの必修科目を含め、80単位以上を修得しなければならない。
- (4) 進級要件または卒業要件を満たさない者は留年とする。

XII 成績発表

- (1) 成績発表は、JIU ポータルを利用して行う。定められた開示期間に成績を確認すること。
- (2) 成績の評価は次の記号で表わし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。

(合格)	(正規試験不合格)	(追・再試験不合格)
S：100～90点	F：59点以下（再試験受験可）	D：59点以下
A：89～80点	T：追試験受験可	E：未受験
B：79～70点	Z：追・再試験の受験資格なし	
C：69～60点	評価不能	

- (3) 成績表には、学修成果を総合的に推し量る指標 GPA（Grade Point Average）を表記している。
- 詳細については、Web 履修登録画面にて確認すること。
- (4) 成績についての疑問、質問等は成績開示日のみ受け付けるので、学部事務室に問い合わせること。
- (5) 事故、病気等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は、代理人を定め、成績表の交付を受けること。その場合、代理人は学生証及び委任状を持参すること。

